

カトリック六甲教会 教会報

2014

9

No.513

大阪教区大司教が交代されます。

教皇フランシスコは、大阪教区の池長潤大司教（77）から提出されていた退任願いを受理し、後任の大司教として広島教区の前田万葉（まんよう）司教（65）を任命した。バチカンが8月20日正午（ローマ時間/日本時間同日午後7時）に発表した。

前田司教は1949年、長崎県の新上五島町生まれ。75年に長崎教区の司祭になり、福江・浜脇・宝亀・俵町・田平・平戸ザビエル記念の各教会で司牧。その間に教区広報委員長、教区報編集長、教区顧問などを務めた。

2006年4月にカトリック中央協議会の事務局長になり、11年6月13日、広島教区司教に任命。同年9月23日に司教に叙階された。

（カトリック新聞 online 2014年8月20日記事）

トマス・アクィナス前田万葉新司教の略歴

1949年3月3日 長崎県南松浦郡新上五島町仲知生まれ

1975年3月19日 司祭叙階

長崎教区の幾つかの教会を司牧担当。

1988～1991年 教会での司牧のかたわら、

長崎教区報『よきおとずれ』の編集長を務める。

2001～2006年 平戸ザビエル記念教会主任、平戸地区長、教区顧問。

2006年4月 宗教法入「カトリック中央協議会」事務局長就任。

2011年6月13日 広島教区司教に任命。

2011年9月23日 司教叙階。

（カトリック中央協議会 HP より 2014.8.20）



◎「着座式」の日程が、以下のように決まりました。

日時：2014年9月23日（火、秋分の日）午後2時より

会場：大阪明星学園マリアンホール

どうぞご参加ください。



ナルドの花たより

「キリストの十字架の力に信頼してください。キリストから
和解の恵みを受け、他の人にも分かち合ってください。」

Trust in the power of Christ's Cross!

Receive his reconciling grace and share it!

(フランシスコ教皇の8月18日ツイートより)



教皇、韓国を訪問

「いつもキリストを証しして」
AYDミサで青年に促す

【ソサン（韓国西部）8月17日 CNS】

教皇フランシスコは8月17日、アジアのカトリック青年たちに向けて、何をするときにもキリストを証しするよう呼び掛けた。

韓国西部の殉教地「ヘミ城」で、足もとのぬかむ中行われた第6回アジア・ユース・デー

(AYD)の閉会ミサには、アジア22カ国の青年のリーダーたちを含む4万人以上が参加した。教皇はミサの説教で青年たちに、「神の愛を示す」よう促し、青年たちが「社会生活に参加することは権利であり、義務でもあります」と指摘した。

「どうか恐れることなく、社会生活のあらゆる状況の中に信仰の知恵をもたらしてください」と教皇は青年たちに語り掛けた。教皇はまた、「皆さんのカトリック信仰と相いれないこと……そして、現代文化の中の罪深く、腐敗していて、死につながる側面」を識別するよう促した。

AYDに教皇が臨席するのは初めて。教皇フランシスコは、今回の大会のテーマ「アジアの若者よ、目覚めなさい。殉教者の栄光があなたの上に輝く」を強調した。

「青年が眠ってしまっているのはよくありません」と教皇は語った。「いけません。目を覚まして、前進しましょう！」

ヘミ城は18世紀から19世紀にかけての100年間で、数千人のカトリック信者が殉教した地。

「若いキリスト者の皆さんは、労働者でも学生でも、既に仕事を始めているか、結婚または奉献生活、司祭職への召命に応じていても、教会の将来への役割を担っているだけでなく、教会の現在にとって必要で、愛されている一員なのです」と教皇は説教で語った。

教皇はアジアの青年たちに、「貧しい人や孤独な人、病気を患っている人、疎外を受けている人への奉仕に努めることによって、神を愛し、あがめる教会」を築くよう呼び掛けた。

(カトリック新聞2014年8月24日号より)



韓国西部のヘミ城で8月17日に行われた
AYDの閉会ミサで説教する教皇フランシスコ

忘れないで！

～東日本の被災地から～

福島 こころの架け橋ツアーに参加して

※前月号のつづき。前半部は教会報8月号をごらんください。

3日目、二本松はNHKの大河ドラマ「八重の桜」で有名になった場所です。今日も早起きして二本松城の本丸まで登り、市内をぐるりと見回し、往時を空想してみました。樹齢300年以上の松が立ち並び、木立を進むと鮮やかなアジサイが群生する素敵な場所でした。

今日は葛尾村の方たちが住む三春町の仮設住宅3か所を訪問します。ここも村がまとまって移動しているので、ほとんどの方が親戚で、松本さんだけでした。この仮設住宅には中学生が1人いました。三春町全体で11人の子供がいて、通学には巡回バスが仮設住宅を巡回し送迎しているそうです。子供たちは避難所、仮設住宅を転々と移動し、その度に転校した為、登校拒否になった子供さんもいたようです。女性達は暇な時間にパッチワークや、クラフトテープでバッグ作りをしては知人に差し上げているということでした。

三春町は「滝桜」の名で知られる樹齢1000年を超える見事なしだれ桜があります。幹はいくつにも分かれ、枝は地面に届きそうなくらいで満開の頃には30万人の観光客が訪れるそうです。ここここにしだれ桜を見かけますが、梅、桃が一度に咲き揃うことから三春の地名が付いたそうです。

昼食には地元田村市で有機栽培野菜を作っている大河原伸さんのお店のお弁当をいただきました。農家の6代目で、先祖が大事に育ててきた土地で30年前から有機栽培を始め、安全安心な作物づくりをしていたのが原発事故で農業ができなくなりました。悔しくて辛くて涙のこぼれる日々だったけれど、土地を捨てることは自分の人生を捨てること、そんなこと絶対にできない、安全な野菜を作り安心してまた食べてもらいたいという強い意志を持って、風評被害にくじけそうになりながらも、生活を守るために「エスペリ(希望)」というお店を開き、販路開拓のためにも頑張っておられました。思いのたけを歌にしてYou-Tubeに流しておられますので是非ご覧ください。「エスペリ」を後に一路仙台空港に向かい、夜9時半ごろ無事神戸空港に戻ってまいりました。

仮設住宅の皆様とお別れする時にはいつも「お元気でね。」しか言えなくて…。私たちは自分の家に帰るのに、自分たちの家に帰れない方々が見送ってくださることに申し訳ない気分を味わいます。国は本当にこの方たちの生活再建を考えているのだろうか、利権がらみの様々な思惑に、弱い立場の被災者が弄ばれているのではないかと大きな疑問を感じます。被災された方々が、自分たちは忘れられていくのではないかと不安を少しでも和らげ繋



仮設の皆様との懇談風景

がっていくために、社活の支援をこれからも細く長く、必要がなくなるまで続けていこう、そして、どうか頑張っている被災者の皆さんが希望を失わずに元気でいてくださることを心から祈った旅でした。

(長瀬)



<行事報告>

2014神戸地区合同キャンプの御報告

今年の教会学校の「夏のキャンプ」は、神戸地区の11小教区が参加して、8月8日から11日の日程で兵庫県兎野高原野外教育センターにおいて実施される予定でしたが、台風11号の近畿地方直撃が予想されたため、全て中止となりました。

「ふっこうのかけ橋プロジェクト」にて神戸に来ていた福島県郡山教会、松木町教会の子どもたち14名は、キャンプに参加出来なくなり急遽住吉教会にて合宿することとなりました。いろんな小教区の多くの教会関係者の積極的かつ献身的な協力、住吉教会学校との遠足、神戸地区の教会学校リーダーたちとの交流会、社会見学、共同制作など、盛りだくさんの3泊4日を過ごして8月12日福島に無事戻られました。

合同キャンプの成功に向けてご協力いただいた皆様には、心からお礼申し上げます。ありがとうございました。
(教会学校 大橋)



<行事報告>

祈りと音楽の集い (8月15日 聖母被昇天)

今回の「祈りと音楽の集い」は、聖母被昇天の祝日にちなみ、典礼聖歌よりマリアさまに関する曲や、数人の作曲家による『アヴェ・マリア』等を集めて、聖歌隊、音楽奉仕者と朗読でお送りしました。

雨の中、たくさんの方にお集まり頂き、共に祈りの時を持たせた事に感謝いたします。

開会でのコリンズ神父さまのお話の中に「祈る事と音楽は同じ」とありました。私は音楽に携わる仕事をしていますが、教会のミサや集いで歌ったり、オルガンを弾いたりする時には、自分が自分であることができる気がします。それはきっと、これらが神父さまの仰る祈りであり、すべてが自分を越えたところに向かうものだと思うのです。

プログラム中で2曲、グレゴリオ聖歌も歌いました。これらの曲は昔々、修道士たちが祈りのことばを何度も何度も唱えてそれにやがて抑揚が付き、メロディーに変化していったと言われていいます。祈りと音楽は同じと言われるまさに所以となるものなのでしょう。

8月15日、この日はカトリックの大切な祝日であると同時に終戦記念日でもあり、平和に思いを寄せて祈る日です。フランシスコ教皇の平和のメッセージの朗読の後、アッシジの聖フランシスコによる平和の祈りを、ひとつひとつのことばをかみしめながら歌いました。

今回はミサでも歌われて皆さまよくご存知の曲が多くありましたので、会衆席から一緒に口ずさんで下さる方もおられ、会場がひとつになれたようでとても嬉しく思いました。聴いて下さった方に楽しんで頂いて、気持ちが少しでも和まれれば、と願います。そして、私たちは皆さまからたくさん力を頂きました。

「祈りと音楽の集い」を、いつも見えないところで支えてくださる方々に感謝しています。

これからも信徒の方々をはじめ、まだ教会を知らない方々とも交わりの輪が広がる集いにしていきたいと思えます。どうぞよろしく願い申し上げます。

喜びと感謝のうちに。 聖歌隊 ラファエラ 野村



<行事報告>

納涼の夕べを終えて

大雨警報の中でしたが、皆様のお祈りのお蔭で納涼の夕べ（8月16日）を無事に終えることが出来ました。当日13時に集合し会場設営に取り掛かりましたが、設営が完了した頃に大雨が降りテントに大量の雨が溜まり滝のように流れ落ちえらいことになりました。しかしミサが始まると雨は止んでくれました。



ミサは上智福岡で教鞭を執っておられる山内神父様が司式されました。説教ではイエスとカナンの女との会話を関西弁バージョンで再現していただき臨場感の極みでした。ミサが終わるとドット皆さんが出てこられ、あっと言う間にテント下のお店とイグナチオホールが皆さんで一杯になりました。

お店は地区ごとに担当いただきました。雨の中でしたが夫々に工夫していただき盛り上げていただきました。テント下に吊るした提灯の灯も夜店の雰囲気醸し出してくれました。また、浴衣姿も多くみられすごく華やかでした。



雨が上がったおかげで花火も出来ました。子供たちが沢山集まりキャーキャーと言って楽しんでくれました。

今年も昨年に続き橋岡さんご夫妻にカントリーミュージックの演奏をお願いしました。イグナチオホール満席の会場がひとつになって楽しませていただきました。昨年の演奏では、論平君という1歳の赤ちゃんがギターのリズムに合わせて踊ってくれました。今年も2歳になった論平君が来てくれましたが、ママが促しても踊ってく

れませんでした。「恥かしくなったのかしら」がママの一言でした。

中高生、大学生の多くの若者が集まってくれました。会場設営、会場撤収に汗を流してくれました。これほどの大勢の若者を抱える教会であることを改めて認識しました。幅広くそして底深い私たちの共同体、六甲教会です。これからも皆で六甲教会を盛り上げて参りましょう。



この度の納涼の夕べは、堤さん（東灘南地区）、久野さん（灘北2地区）、安田さん（灘南地区）に企画をお願いしました。そして、お店を担当いただいた地区の皆さま、ご苦労様でした。感謝申し上げます。

（地区会 川合）



《各部だより》 各専門部会の活動をお知らせいたします

📌 地区会

9月7日(日) 役員会

📌 教会学校

9月6日(土) リーダー会

9月13日(土) 始業式

9月27日(土) ミニ運動会

📌 宣教部

9月28日(日) 部会

📌 施設管理部

9月28日(日) 部会

📌 社会活動部

10月3日(金) 初金ミサ後 連絡会

★地区会より★

主の平和

日頃は教会地区会の活動にご協力いただきましてありがとうございます。

さて、近頃地区会の連絡メールが届かないというお声が多く、教会メールシステムについてチェックいたしましたところ、ご登録いただいているアドレスの多くがエラー回数の上限（3回）を越えてしまっており、送信されない状態になっていることがわかりました。

エラーの原因は以下が考えられます。

1. パソコンからのメールを拒否している。（携帯機種変更した場合はよく起こります。）
2. 「なりすましメール」として判断され受け付けられない。
3. サーバーがいっぱいになっていて受け付けられない。
4. 迷惑メールと判断されて別フォルダーに入っている。 など

解決方法は以下の通りです。

●教会の連絡メールは次のアドレスから発信されます。mail-renraku@rokko-catholic.jp
携帯メールの方はこのアドレス又はドメインを指定受信できるようにしてください。ご自身での変更が難しい場合は携帯電話店へ持参なさってお店の方にお伺いください。

Gメールの方も同様にしてください。

PCメールの方は迷惑メールとして振り分けられていないかをご確認下さい。またサーバーの容量によりましては満杯になってしまい拒否されるということもありますので、不必要なメールをサーバーから削除して容量を増やしてください。

現在エラーで止まってしまっている方も一時的に解除しておきますのでこのような方法で届くようにしていただければ今後教会メールシステムからのメールもお読みいただけると思います。どうぞよろしく願いいたします。

なおご不明の点は地区会・橋岡までお問い合わせください。

★社会活動部より★

♪手芸の集い

9月 3日（水）10時 第1・2会議室

どなたでも参加ご自由です。

♪炊き出し

9月13日（土）10時 イグナチオお台所

小野浜グラウンドにて配食や、おじさん達のお話し相手だけでもOKです。

♪ともしび ケーキづくり

9月 8日（月）9時30分 イグナチオお台所

26日（金）9時30分 イグナチオお台所

♪9月21日に予定していましたふれあい広場はお休みです！

2014年度神戸地区平和旬間行事中止のご報告

8月9日に神戸中央教会にて予定されておりました2014年度神戸地区平和旬間行事は台風11号のため、当日朝に中止が決定されました。当日は池長大司教司式「平和祈願ミサ」、フランス人神父による戦争体験のお話、納涼会などが計画されておりました。戦争と平和を皆で考える良い機会になるはずでしたが、残念です。

なお、現在のところ順延等の予定はございません。ご了承よろしく願いいたします。

（社会活動部）

社会活動部学習会

10月26日(日) 10時ミサ後

テーマ “今日から始めよう心と体の健康づくり”

なんとなくイライラして眠れず不安等感じた時はどうしたら～?

講師 : 大西道生先生(精神科医)

場所 : イグナチオホール

★養成部より★

上智大学名誉教授 雨宮慧師による聖書講座

みことばに聴く

日時 2014年9月13日(土)・14日(日)

両日とも午後1時30分～4時

場所 カトリック六甲教会 主聖堂

神戸市灘区赤松町3-1-21

(阪急六甲駅より北へ徒歩7分)

講師 雨宮 慧神父

主催 カトリック六甲教会

参加費用 無料

問い合わせ先 カトリック六甲教会事務局 ☎078-851-2846

申し込み不要

ご来場には公共交通機関をご利用ください。



講師プロフィール

東京教区司祭 ローマ教皇庁立聖書研究所卒

上智大学名誉教授(聖書学)

主な著書に「旧約聖書のこころ」(女子パウロ会)

「旧約聖書の預言者たち」(日本放送出版協会)

「図解雑学旧約聖書」(ナツメ社) 等がある

★墓地委員会より★

墓地っこ便り

一部のお墓がいのししに荒らされています。直ぐに、ご自分のお墓を確認してください。

個人のお墓は個人の皆さんで管理してください。年間管理費は個人のお墓をカバーしていません。

なお、いのししの被害を避ける最良の方法はコンクリート打ち+玉石敷きです。3万円/1区画です。迫田石材(078-881-4114)にご依頼ください。(墓地委員会 SF)

★三日月会より★

三日月会総会のご案内

今年は新しく主任司祭としてアルフレド神父さまが来られて、三日月会の運営には特に関心と期待をもっておられます。次の一年も更に親睦プラスなにかを目標に活動を続けてゆきたいと思しますので、総会で自由なご意見を頂きたく、健康上の理由で止むを得ない方々も大勢いらっしゃると思いますが、ぜひ万難を排してご参加頂きますようお願いいたします。 (三日月会 鈴木)

第 35 回三日月会総会

日時：平成 26 年 9 月 15 日(敬老の日) 午後 1 時～4 時

場所：カトリック六甲教会

会費：500 円 (当日集めます)

プログラム：

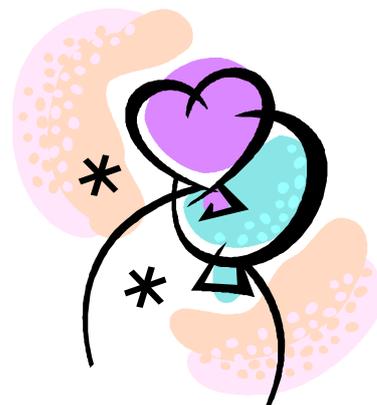
第一部

午後 1 時～2 時 ミサ (アルフレド神父
一部グレゴリオ聖歌で歌います)

午後 2 時～2 時 45 分 講話 (アルフレド神父)

第二部

午後 3 時～4 時 総会と懇親会 (イグナチオホール)



総会の出欠回答は聖堂入口の箱にご提出ください。ご提出できない方はご面倒ですが、〒657-0061 灘区赤松町 3-1-21 カトリック六甲教会三日月会まで郵送をお願いいたします。

★典礼部より★

「祈りと音楽の集い」Vol. 14

2014 年 9 月 27 日 (土) 17 時半より

昨年度より始めた 1 年に 1 回、他の教会からオルガニストを招聘して行う企画です。

今年は京都カトリック河原町教会オルガニストの桑山彩子氏を迎えて、バッハのオルガン音楽とともに行います。土曜日の夕方、静かにオルガン音楽に耳を傾け、バッハの祈りに心を寄せるひと時をご一緒出来たらと思っております。

＜桑山彩子 プロフィール＞

エリザベト音楽大学卒業、同大学大学院修了。2000 年より渡仏、リヨン国立高等音楽院を審査員満場一致のプルミエ・プリを得て首席で卒業。高等音楽学国家免状を取得。リヨンを中心にトゥールーズ、ル・ピュイなどフランス各地で演奏会を行っているほか、アルクマール (オランダ)、フライベルク、ドレスデン (ドイツ) など、各地の歴史的オルガンによる演奏会に招かれる。第 6 回ゴットフリート・ジルバーマン国際オルガンコンクール優勝。2008 年度、京都市芸術新人賞受賞。

オルガンを山崎陽子、ジャン・ボワイエ、リーズベス・シュルンベルジェ、ルイ・ロビヤール各氏に師事。京都カトリック河原町教会オルガニスト。日本オルガニスト協会、日本オルガン研究会会員。



《 図書室からのお知らせ 》

2014年8月に入った図書から

- ☆ **指針 人格の尊厳 — 生命倫理のいくつかの問題について** — 教皇庁 教理省
クローン羊ドリー、ヒトES細胞などを受け、生命科学技術に関する倫理的考察と判断。
- ☆ **エキュメニズムに関する教令** — カトリック中央協議会
「キリスト者の一致」について。第2バチカン公会議文書の改定公式訳と解説。
- ☆ **新共同訳聖書 コンコルダンス 聖書語句索引** — 秋山憲兄 新教出版社
信徒の方からの希望図書として購入しました。教会員が共有するのに相応しいと思われる図書をご推薦下さい。図書室入口に投書箱があります。
- ☆ **もっと教会を行きやすくする本 「新来者」から日本のキリスト教界へ**
—— 八木谷涼子 キリスト新聞社
雑誌「Ministry」の人気連載の単行本化。初めて来た人にはこう見える。全国100以上の教会を訪ねてきた『プロ』の目で総点検(帯より)。

“もっと教会を行きやすくする本” の内容紹介と問題提起

「キリスト新聞」と雑誌「Ministry」は、カトリックとプロテスタント、教派を越えての情報を発信しているメディアです。イエズス会の岩島・英・川村神父、岡田大司教 森司教も記事を書かれていたりします。このため、この本で扱う「教会」はどちらかというとプロテスタント教会の例が多いともいえますが、カトリック教会のケースも含まれ、また参考になること、考えさせられる内容も多くあります。また客観的な内容というより、初めて教会を訪れた個人が、感じたことを具体的に書いた主観的なものです。これをヒントにまた出発点に六甲教会について考えあい語り合うことで、シェア（分かち合う・共有する）して行くことで、教会が変わって行く手掛りにならないかなと思います。

教皇フランシスコは“福音の喜び”の中で『教会は、つねに開かれた父の家であるよう招かれています。開かれていることの具体的な印の一つは、どの教会でも門を開いたままにしておくことです。』と述べています。門が開いているとは、教会内からの主観からではなく、外から入ってくるあるいは遣ってこようとする人たちにとって開いているかどうかの問題です。まず『教会は「どのように見られているのか」「何なのか』」を考えることが出発点であると思うのです。

次に、この本の主な内容を挙げます。

1. 教会へ行くまで、：外掲示板でその教会がわかる／地図にのっている教会、いない教会
／電話の対応
2. はじめて礼拝に出してみる：入りやすい教会／扉の先にある対応／新来者カードを考える
／座席の問題
3. 礼拝の難しさ：ついていきにくい礼拝／つらい礼拝／新来者と聖餐式

／礼拝はいつ終わる？／礼拝後に新来者を待っていること

4. 教会とインターネット：教会のインターネット活用／基本情報をわかりやすく

／困ったサイト／音声配信と礼拝動画

家族や友人に連れられて教会にやってくるのではない人が、教会の門をくぐって入ってくる時に、教会の入口の案内をまず見ます。人の内側は外見ではなかなかわかりませんが、教会についてはある程度わかります。教会を探しやすくする、入りやすくするための工夫を考えることがまずはじめでしょう。検索・広告・掲示・問い合わせの電話の応答・ホームページも関わってきます。

礼拝とは、ミサや典礼、集いへの参加のことです。入口で案内者に渡される聖書と典礼、週報、各種案内。典礼聖歌やプリント、結婚式やご葬儀であれば式次第。新来者カードはカトリックでは習慣がありませんが、初めての方、慣れない方には相談に乗るとか必要かもしれませんが、六甲教会のように参列者が多いと見分けが難しいかもしれません。・・・

聖歌番号、ミサの進行状況が分からなくて、又周囲のちょっとした応答に戸惑っておられる方をよく見かけますが、サイドの人との予めの挨拶とサポートで不安を無くすことができると思います。平和の挨拶は「自分が歓迎されている」との印象が残される方が多いようです。先唱者の案内も吟味してみる必要があると思います。本では、「難しい点：式次第を備えている教会が少ない。アナウンス、説明が貧弱、いきなり歌いだしたり唱えだすこと多く、参照すべきものの把握が困難。…」とコメントされています。またミサ後の会話もお互いに心掛けるようにすれば一体感や「また来よう」というアピールにもなると思います。



インターネットについては、これからの時代、呼びかけ・交流・連絡・確認さまざまな場面での有効性が大きな影響力を持つようになっていくと思われまます。教会公認HP、司祭や信徒からのブログ、フェイスブックやツイッター、音声・写真・動画などの配信など、めまぐるしいくらいに展開されています。本の中に「教会をオープンにする礼拝ライブ中継」の例や参考書の紹介もあります。わかりやすい紹介、親しみやすい案内を目指して行きたいと思います。皆さんの知っている情報のシェアと交換によって、研究と改善を図っていきましょう。

「イデ ミサ エスト」ミサの終わりは、派遣の言葉です。終わりはすなわち始めなのです。一緒に教会のあり方を考え、語り合い、作り上げていきましょう。主と共に。 (飯塚和彦)

※このコーナーでは、教会員の方々と分かち合いたい図書・映像などの紹介や、皆様の感想文を募りたいと思います。図書室に在る本やDVDでも、無いものでも構いません。原稿をお待ちしております。後日ご連絡させて頂く必要がおこった時のため、提出原稿には必ず氏名・連絡先をご記入ください。

- 原稿提出先：
- ①教会事務受付
 - ②教会 Fax078-851-9023
 - ③E-mail: renraku@rokko-catholic.jp

みんなの広場

福音を説かれるもの

洗礼を受けて数年、やっと私も皆様の仲間入りをして福音を伝える者になりたいと思えるようになりましたが、ふと思ったのです。意思疎通のできない寝たきりの方々に私は宣教できるのかしら？と。

父はことばと身体を失って、その全存在を介護者に「委ねる」生活が続いてきました。意思表示ができませんから、周りの者は父の様子から暑くないか、寒くないか、苦しくはないか、と「見る」より他ありません。そのような日々を重ねるうちに、神様との関係はこのようなものではないかしらと思うようになりました。そして父が入院して同じように寝がえりひとつ打つことができないで目をつむり、横たわっている方々に、先ほどの疑問がでたのです。「私は宣教できるのかしら？」と。

福音を伝えることはおろか、例え笑顔でご挨拶ができるとしても私の存在自体認識されていないかもしれません。そして気づいたのです。福音を説かれているのは私のほうだと。私たちが日常生活で追い求めているものが何の意味も持たない世界、ただ、じっと時間や人の手に身を委ねている方々はある意味肉体を脱ぎ捨て、「命」だけを見せてくださっているように、そして、一息、一息が神の息吹だというのはこのことかしら？と思ったりいたします。



イエス様がマリア様のご胎内にいらしたとき（「存在しているだけ」ともみえるとき）、同じくご懐妊中だったエリサベトのお腹の中の赤ちゃん（洗礼者ヨハネ）は、「喜んでおどりました」（ルカ 1：44）。神様の愛を宿されるマリア様のお声に、どなたがすぐ傍にいらっしゃるのか感じられたのでしょうか。「この目であなたの救いをみた」（ルカ 2：30）と喜んだシメオンは、ご両親に身の周りの世話をすべて「委ねていらした」赤ちゃんのイエス様にメシア（救い主）をご覧になったのでしょうか。

メシアであられる主は、この世でのご生涯の間もご復活後の今も私たちを救い続けてくださるだけでなく、神の救いの方法をあますところなく見せてくださっているのでしょうか。

三位一体とは主のご生涯のようなものかもしれないと思ったりいたします。マリア様のご胎内では聖霊、この世では御子、そして天に昇られた後は父。そのどの「時」においても主は主であり、それこそ「時」を、すべてを統べる方でいらっしゃるのでしょうか。

福音を伝えたいと思った私は、同時に信徒という枠さえ超えて福音を説かれる者であるのに気づかされました。本当に福音を説かれるのは主のみで、ただ私たちはたとえどのような状態であっても主を、福音を宿す者でありうるのだと、寝たきりの方々に前に思います。

どんなときにも私たちに寄り添い、私たちを救い続けてくださる主イエス・キリストの愛に、そして主の救いによってどの瞬間も私たちは永遠の命を生きるのだと、気づかせていただいた私たちは何と幸せなことでしょう！ この喜びをひとりでも多くの方に運びたいと願います。（マリア）

天 使

9月29日。この日は3位の大天使を祝う。嘗ては大天使聖ミカエルの祝日だったが第2バチカン公会議で9月29日に聖ガブリエル、聖ラファエル3位の大天使を合わせて祝われることになった。

大天使聖ミカエルについては、黙示録に武勇伝がある。聖ガブリエルはよく知られた「神のお告げ」の使者として現れる。聖ラファエルについては11世紀に祝日があったというが、どういう天使なのか殆ど知られていないのではないかと。旧約聖書のトビト記に屢々現れ、12:6以下で自分の正体を語っている。



創世記では蛇がエバを誘ったとされている。「蛇」とは悪魔のことだと言われるが、黙示録では悪魔は天使であった。黙示録では聖ミカエルに追い落とされたとあるが、それがこともあろうに「樂園」にいたという。どういうことか。

10月2日は「守護の天使」を記念する。日頃意識することはないだろうが神は人間一人一人に路を踏み外さないように守る天使を遣わされている。その天使は絶え間なく傍らにいてすべてを見ている。彼の目から隠れるところはない。それでも路を踏み外すのだから人間とはよほどの「剛の者」だ。

そもそも天使とはどういうものか。歴とした存在でありながら形がない。だから羽もない。時には人間の形でどこからともなく現れ、どこかへ消える。時には形がないまま人間に働きかける。

普段おそらく殆ど意識することがないだろう子供向けのお話ではない本物の天使のことを、思い出してみよう。
(ヨハネ 三好)

人の「使い捨て」やめて

先日のカトリック新聞に教皇フランシスコのこの記事が掲載されていた。記事によると、教皇は、「教皇庁正義と平和評議会」主催の国際セミナーに参加した経済学者や投資家たちに向けて、現在の「使い捨て」文化の潮流を押し戻し、財務戦略や政策で人間を片隅ではなく中心に置くよう努力を促した。

更に現代の人々は人間性を奪われ、「不平等が幅を利かせる社会、経済システム」の歯車にされている、と教皇は指摘する。ここ数日毎日新聞は「ハイチの子供奴隷」と題し、シリーズで掲載しているが、世界の至る所でまだまだこれに似た悲惨な現実が起こっているのだろう。そして、社会の底辺で生きる子供、高齢者、そして若者は今も「使い捨て」のように扱われている。

神様は決してこの世に「ガラクタ」はお創りになっていない。今回の教皇メッセージは、一人一人の人間を尊重し、互いに共存し、「使い捨て」人間を創らない社会を目指すことを強く要望されているものと思う。
(エドモント)

教会報 10月号の発行は、9月28日(日)です。 編集会議を9月21日(日)に行います。 記事原稿は、9月14日(日)正午までに 信徒会館受付へご提出願います。(広報部) http://www.rokko-catholic.jp	カ ト リ ッ ク 六 甲 教 会 〒657-0061 神戸市灘区赤松町3-1-21 電 話 078-851-2846 F A X 078-851-9023 発行責任者 アルフレド・セゴビア 編 集 広 報 部
---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------